

平成 23 年 3 月 26 日(土)12:10 報告より

<緊急支援物資の搬入状況等>

- ・ J Aグループの東北関東大震災災害対策緊急中央本部からの被災者向け生活支援物資（包装米飯や缶飲料等計約9トン）が、25日午前9時に受け入れ施設（J A全農みやぎの配送センター）に到着。すでに宮城県庁と調整が完了し、今後、被災者に対して配分される予定。

<宮城県庁に対する被災地概況ヒアリング>

- ・ 宮城県庁を訪問し、被災地概況についてヒアリングを実施。主な内容は以下のとおり。
 - ・ 全国各地のJ Aから沢山の被災地向け物資を無償支援いただき、大変ありがたい。震災から2週間たつが、これだけ長い期間支援していただけているのはJ Aグループだけ。
 - ・ 県内には700弱の避難所があるが、それぞれの環境は大きく異なっている。避難所が求めるニーズも日々異なっており、トレースしきれていないのが現状。

(具体例)

- ・ 施設的环境（①1階は損壊し2階からが避難所となっているところ、②ライフラインの復旧具合、③支援物資を積んだ車がアクセスできないところ、④車の燃料がなくて物資を届けられないところ）
- ・ 施設に対する支援の入り方（①自衛隊が入っているところ、②NGOが入っているところ、③まったく入っていないところ）
- ・ 避難者の避難理由（①家が損壊したため避難している者、②電気が停まっているため避難している者）
- ・ 避難者の年齢構成
- ・ 避難所それぞれ求めるものも個別に異なってきた感じをうけている。避難所によっては、（飲食料の備蓄がわずかになっているため）食料を求めているところもある。避難所で胃腸炎が流行りつつあるため防疫グッズを求めているところもある。
- ・ なお、避難者のなかには入院していた患者もいるが、多数の病院が機能を失っており、転院もなかなかすすんでいない状況。
- ・ 一方で、まだ行方不明者も多く、捜索も引き続き行われている状況。
- ・ 人的支援の段階まで達していないのが実態。